

「地歴・公民部会の使命—『学び合い・認め合い・高め合い・支え合う』場として—」

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会長 高橋 一 矢
(北海道札幌厚別高等学校長)

今年度、高教研地歴・公民部会長を仰せつかることとなりました札幌厚別高校の高橋です。会員の皆様には、日頃より当部会の活動に多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。もとより微力ですが、活動の充実・発展に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

まずは私事になります。新米教師として地方の小規模校に勤務していた頃、希望に燃え情熱をもって日々の授業に取り組んでいたつもりでしたが、事前に十分な教材研究もできず、教え方も未熟で、生徒の反応も芳しくありませんでした。何とか生徒にとって「分かる」「楽しい」「魅力的な授業がしたい」と、藁をもつかむ思いで、初めは授業のネタ探しという目的で本研究会（地歴・公民部会 ※以下 本部会）に参加したことを思い出します。以来何があってもこれまでほぼ毎年参加し続け、今更ながら本部会から学んだものは、私にとって一生の宝物になっていると確信しています。

ところで、俯瞰的に見た場合、本部会には大きく二つの機能があると考えています。第一は“授業”充実のための「共有」の機能です。全道の教員が世代を超えて、授業に係るさまざまな情報を「共有」する場として、これまで大きな役割を果たしてきたところです。第二は「協働」の機能です。今日では、小規模校の増加に伴い、教員の孤立化が指摘されています。特に初任段階の教員の力量形成には同じ教科教員の協働化が不可欠になります。若手教員の育成は私たちの責務です。本部会には何より「信頼関係に基づく協働意識の形成」という大きな使命・役割があるのではないかと強く思っています。本部会にはこれまでの軌跡を振り返り、互いに「学び合い・認め合い・高め合い・支え合い」ながら、引き続き未来につなげる実践を「共有」し、「協働」して進めていくことを期待しています。

さて、昨今、次期学習指導要領（2027年度に見込まれる）のリニューアルに向けた作業が本格的にスタートしています。「持続可能な社会の創り手の育成」を掲げる第四期教育振興基本計画からすれば、現行のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」が引き継がれることが予想されます。地歴・公民科においては、「主体性」そのものの曖昧さに加え、デジタル化への対応・ICTの活用法や、専門ではない科目をどう教えるのか（地理総合や歴史総合において）等々、課題解決に向けた新たな実践はすでに始まっています。

今日、VUCAといわれる予測が難しく変化が激しい時代にあって、コロナパンデミックや戦争のような突発的・歴史的な出来事にも向き合いながら、目の前の生徒の未来に貢献するために、どのような教育を創ることができるのか。現学習指導要領が掲げる「グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育む」ため、全道の地歴・公民科教員の英知を結集しつつ、今後も地歴・公民科教育のさらなる高みに迫り、新しい視点から切り拓いていきたいと思います。

結びに、本部会がこれからも全道の地歴・公民科教員の同僚性の継承の起点になることを祈念するとともに関係各位の一層の御理解と御協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。